

基礎データ

- サル分布状況: 瀬沢群 50頭、鳶木群 50頭、花場群 150頭 【加害レベル】いずれもレベル3(目安: 通年農地に出没し、農作物に被害を及ぼす)
- 農作物被害額 (H28): 1,489千円 【作物種別】トウモロコシ、ネギ、カボチャ、ブルーベリーなど
- 進入防止柵(集落柵)の設置: 51.1km 【柵の種別】ネット柵(通電あり・なし)、電気柵、金網複合柵
- サル捕獲頭数 (H28): 瀬沢群 9頭、鳶木群 16頭、花場群 26頭

※第一次 富士見町サル被害対策プロジェクトより引用

サル被害対策の現状と課題

<追払い>
被害農家個人レベルでの実施
➢ 集落全体での追払いの実施

<環境整備>
誘因物の残存、緩衝帯未整備箇所
➢ 誘因物の現況把握、緩衝帯整備の実施

<進入防止>
集落柵設置事業の完了も、通電しなかったり隙間があったり、そもそもサル対策に向いていないものも
➢ 資材支給などで不良箇所の修繕をサポート、電気柵監視通報システムの有効活用、農地ごとの電気柵設置

<有害捕獲>
通年、特に冬期に集中して捕獲を実施するも、徐々に捕獲されにくくなっている
➢ テレメトリー調査などによりサル群れ情報・行動特性を把握し、計画的に捕獲

第一次 富士見町サル被害対策プロジェクト(平成三十年三月)

基本方針

町の豊かな自然、農業、暮らしを守るため、「追払い」「環境整備」「進入防止」「有害捕獲」の各対策を、地域のみなさんと協働して、総合的に進める

複合的なサル対策

集落診断

サルの出没位置や誘因物、進入防止柵の現況を調査し、被害原因を特定

追払い

繰り返しの追払いや、集落みんなでの追い上げでサルから怖がられる

環境整備

収穫後の残さや廃果の撤去や、林や藪の整備でサルのエサ場にさせない

進入防止

圃場、集落の種別に応じて進入防止柵を維持管理し、すき間をなくす

有害捕獲

テレメトリー調査などによりサル群を分析し、悪さをする個体を取り除く

加害群れの発生のメカニズム

- サルは、山に生息している
- 山に人が来ないから自由に動き回る
- 畑に近づくとエサがある
- ある特定の個体は野菜に餌付く
- 加害群れの発生

複合的なサル対策により加害群れ発生を抑制

目標

- ・ サル被害の軽減
- ・ 里山のにぎわい復活
- ・ 里地の地域資源の有効活用
- ・ 地域で声をかけあう光景

基礎データ

- サル分布状況: 瀬沢群 40頭、蔦木群 35頭、花場群 100頭、平岡群 40頭
- 加害レベル: 瀬沢群・蔦木群 レベル4(目安: 群れの全個体が通年耕作地周辺に出没、常時農作物被害、人慣れしている)
花場群・平岡群 レベル3(目安: 群れの大半の個体が季節的に耕作地に出没、季節的に農作物被害、人慣れし始めている)
- 販売用農作物被害額: 569千円 【作物種別】トウモロコシ、カボチャ、ブルーベリー、トマト、イチジクなど
- 賦存進入防止柵(集落柵): 50.5km 【柵の種別】ネット柵(通電あり・なし)、電気柵、金網複合柵
- サル捕獲頭数(計画期間累計): 265頭(瀬沢群41頭、蔦木群83頭、花場群129頭、平岡群12頭)

※令和7年度第二種特定鳥獣管理計画(ニホンザル)
年次計画(富士見町計画)より一部引用

集落診断

- GPSデータを引き続き収集し、環境整備や有害捕獲の基礎資料として活用

追払い

- 集落からの申請に基づき、追払い資材の支給
- ホームページのサルマップを通じて、住民のみなさんの追払いの実施状況を共有。ホームページに追払いマニュアルを掲載

環境整備

- 協議会事業により、田端区で進入防止柵設置予定箇所に長さ100m、幅おおむね5m以上の緩衝帯を整備
- 坪平地区・大平地区で、森林環境譲与税を活用しての里山整備事業(間伐)を実施。令和7年度も花場地区・大平地区での事業を計画
- 山へ行こう補助事業にて民有林の下草刈りなどの森林整備を支援

進入防止

- 上蔦木地区で、長さ418mの進入防止柵の設置工事
- 田端地区で、長さ170mの進入防止柵の設置工事
- 先達地区で、長さ235mの進入防止柵の設置工事
- 集落からの申請に基づき、進入防止柵の補修等の資材を支給
- 個人の農地に設置する電気柵の資材費に補助金を交付
➢富士見台、とちの木、若宮、机、瀬沢新田、烏帽子、横吹、先達、葛窪地区で17件の補助を実施
- 電気柵監視通報システムの活用
➢御射山神戸区では、毎日電気柵監視通報システムを利用することで、迅速な修繕につながっている

有害捕獲

- 富士見町猟友会に通年の委託や町でICTを活用した大型捕獲檻により、39頭のサルを捕獲(瀬沢群8頭、蔦木群7頭、花場群22頭、平岡群2頭)
➢うち、瀬沢群1頭はGPS首輪を装着し放獣。生息状況を把握することで檻の設置場所などの参考にし、今後の捕獲に活用する。
➢ICTを活用した捕獲システムによる檻のリアルタイムでの監視及び捕獲を実施。
- GPSデータは通年収集し、サル群れの行動圏の分析を実施。